

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 医療保護施設・地域医療支援病院

聖隷三方原病院

SEIREI MIK

2024年7月1日発行

道

|骨折|

防

向

けた取り

組み

哲 也

おおぞら2号館

課長

東

枝

者

http://www.seirei.or.jp/mikatahara/oozora/

視化」についてお話しした いと思います。 組み内容「骨折リスクの可 をしています。今回は取り 骨折しない」を目標に活動 上げ、「おおぞらの利用者が より骨折予防チームを立ち おおぞらでは2023年

開始しました。 え骨折予防チームの活動を 識する働きかけが必要と考 利用者の骨折リスクを再認 を減らすためには、 骨折が発生しました。骨折 にかけて2~3%を超えた 21年度から2022年度 していました。しかし20 はそれより少ない値で推移 おおぞらの骨折の発生頻度 ています。2020年以前、 設入所者の骨折の発生頻度 症児者 重症心身障害児者 年間2~3%と言われ 施設における施 職員へ (以 下

するスタッフの視点、 するに当たり、 で構成されています。 チームは看護師、 管理栄養士の多職種 理学療法士、 実際にケア 作業療 介護福 活動 2以上のリスク因子を生活 と年齢層が骨折リスクの高 能2以上の利用者の障害像 がとられている事、移動機

層に変化したことがと考

性別、 が分かりました。 に当てはめていくと、文献 利用者を作成した評価項目 を挙げました。おおぞらの 折リスクの可視化は、 は少なく、 返り不可) 弱性の高い移動機能1 での骨折の実際は、 同様骨折リスクが高いこと 筋緊張など骨折リスク因子 参考にし、 を作成しスコア化して評価 骨折リスク因子チェック表 リスク因子の抽出を行ない、 きます。 ]職の視点を重要視してき た。 栄養状態、 取り組み内容の骨 文献や先行研究を 横地分類や年齢、 の利用者の骨折 移動機能2 (寝 おおぞら 内服薬、 骨の脆 寝

性の高い利用者は移動時方 これらの要因は、骨の脆弱 骨折が増加していました。 返り可能)

以上の利用者の

法や衣服の工夫など対応策





折のリスク因子は個別性の 動などが挙がりました。 の乗車、 身体に合っていない車椅子 関節拘縮した部分のスキン 更衣が難しい時、 その結果、 職員から骨折リスクが高ま 常的にケアに当たっている の視点から挙げるため、 確保できない環境下での移 ケア時、 不意な四肢の動きがある時、 る場面を聞きとりました。 変形や拘縮が進み 十分なスペースが 変形拘縮により 移動中の  $\Box$ 

> ます。今後も利用者が安全 アに活かしていこうと思い リスクの可視化は職員で共 回 支援していきます。 で快適な生活が送れるよう 有し、教育や指導、予防ケ さを再認識しました。 視化を通し、 おおぞらの骨折リスクの 個別性の高 骨 折

できるものとなりました。 い利用者のリスクも抽

#### こだまの 個別活動 中山 利恵

Bさんは職員と会話でいます。 のやり取りを楽しむことのやり取りを楽しみ、勝ち負めができます。月に1回、ができます。月に1回、ができます。月に1回、ができます。月に1回、ができます。

を用意しました。始め し、勝ったときの与びや 負けたときの悔しさが体 り、勝ったときの悔しさが体 ができるものとして、多 ができるものとして、多 ができるものとして、多 ができるものとして、多 ができるものとして、多 がは、相手と

ど工夫することが見られ

持ち方を変えるな

す。これからも、相手と持って取り組めたようで

られることで緊張感を

付き、慎重な動作を求め

でした。短時間

で決着が

欲が強くなっているようたい、勝ちたいという意いくうちに、上手く積み

た積み木を一旦車椅子にうになりました。手にし

るようになっていきまし

高く積めるようになっ

られる活動を行っていき

ている方の腕の洋服の袖てくると、積み木を持っ

注意深く積み木を観察すきの大きさが違うことを伝え、き方が違うことを伝え、き方が違うことを伝え、き方が違うことを伝え、きかが違うことをお置いましたが、 いきました。積み木の接ものを選ぶようになって中くらいのものと小さいを繰り返していくうちに、 ۲ 地面をよく見るようにな た。しかし、崩れること ることはありませんでし み木の面を下にして積む を下にして積んでいくよ  $\subset$ 職員が接地面の小 いたものを真似するよう 積んだりしていました。 しまいました。崩れて 上手く積めずに崩れ 接地面の小さい部分 番大きい積み うさい積 /が 置

れがおさまるまで待つなたなりました。そしてバーなりました。そしてバーなりました。そしてバーがまりまりがある。

れがおさまるまで待つな ほのたいです。」と勝負を挑 夜間はりたいです。」と勝負を挑 夜間はりたいです。」と勝負を挑 夜間はおようになりました。多 を変えた。そして経験を重ねる た。そして経験を重ねる だ。そして経験を重ねる だ。の声とがり緊張感を持って と同じあることや接地面が小さ ドのへあることや接地面が小さ ドのへあることや接地面が小さ にもとで、小さい着み木で れるようした。活動を繰り返して んにちいんにちょ

## **にのかの** 個別活動

ドのヘッドボードを外しれるようにと日中はベッ て生活しています。 と同じ居室で過ごします 行き来を少しでも感じら ア度の高い利用者は夜間 を変えています。 夜間は居室と過ごす場所 るように昼間はリビング、 や場所の違いを感じられ 人の声や動き、 者が生活をしています。 周囲の声や音、 のかには13名の利用 周囲の音 医療ケ 人の

レーズが何度も繰り返されれたりすると、舌を大きくれたりすると、舌を大きくれたりすると、舌を大きくれたりすると、舌を大きくいがはいがはいます。個別る様子がみられます。個別る様子がみられます。個別る様子がみられます。個別る様子がみられます。個別るが」を語りかけがはじまるとAさるが温かく動きはじめあいさつしたくて小さなもあいさつしたくて小さないとってが何度も繰り返されるだが何度も繰り返されるだが何度も繰り返されるでは、「Aさん、「Aさん、「Aさんは、「Aさん、「Aさん、「



が・・」のフレーズに変わ が変化したことを感じてい うリズムがくる事でリズム きく動いていました。 り眼球がスーっと左右に大 ると、舌の動きが小さくな まってしずしずと薄緑の蛾 のフレーズが何度か繰り返 た。「こおろぎぼうやも・・」 るようでした。 リズムの繰り返しの後に違 されたあとに、「しんとだ される事に注目していまし ると舌の動きが大きくな 同じフレーズが繰り返 同じ

うなリズムを感じていまし で眼球を小さく動かし、同 でますを小さく動かし、同 ばかはしる♪」のフレーズ で開けて聞いていました。 く開けて聞いていました。 いました。 、歌い始めると目を大き はみんな、を歌いかけまし る事例に

ついてグル

ィスカッションを

|職員とで認識の差のあ||管理について家族と施

り眼球がスーッと左右に動 に変わると、口元に力が入 るようでした。 な曲調への変化を感じてい ようなリズムからのびやか いていました。前半の弾む か~♪」とのびやか曲調 そのあと、「どうして

> 的 催

かありません。しかし、大きく変わる事はなかなに対して、すぐに表情が 出や変化に気付き、Aさん らも個別活動や日常生活 みられています。これか られない表出がいくつも る事で、 個別活動を通して一対一 少しでも増えていったら にとって心地良い時間が Aさんのちょっとした表 で時間をかけて働きかけ 良いと思っています。 中での関わりを通して、 Aさんは周囲 日常の中では見  $\mathcal{O}$ 表情が 声 、や音

よを

価

講



や

# ACP研修を行ないまし

例検討では、利用者の栄変参考になりました。事ともありましたので、大 スでは、 ていても職 じ課題に マナーやルールについて の各職種の役割・留意点・ 多職種カンファレンスで ションの方法を理解する ンスの目的を理解するこ 現在多職種カンファレン 教えていただきまし すること、利用者の最善 ロジェクトの方々でした。 隷三方原病院のACPプ ことでした。講師は、 考え方の違いに悩むこ 考えるための多職種に され る共通理解について、 値観の違う相手を理解 義 3 家族とのコミュニケー 月 に A C P 研 では、職種や立場、 多職種カンファレ ました。研修の 同じ利用者の同 ついて話し合っ 種による意見 修 が 聖 目開

> 利用者や家族へのより良解して取り組むことで、 びとなりました。職員自 れることができ、よい学出てこなかった意見に触 身がACPの重要性を理 発表ではグループ内では グループ内で活発な意見 様々なことを学びました。 ファレンスの進め方、家 グループワークを通して、 じだと感じました。また、 をという気持ちはみな同 交換ができたこと、全体 者にとってよりよい選択 い支援に結びつくだけで への提示の仕方など 方が 0) 整理の仕方、カン としてもより つて





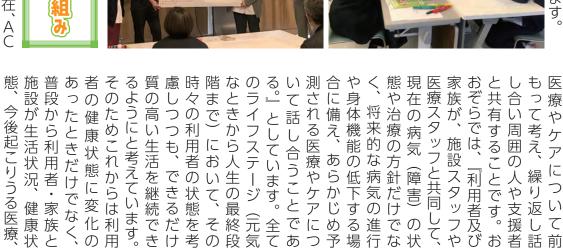
P の ドバンス・ケア・プラン ニング(愛称は お 取り組みに ます。ACPとは、ア おぞらでは現在、 力を入れ 人生会

質の高い施設になってい けると期待しています。

 $\bigcirc$ 

ためにあなたが





る。』としています。全ていて話し合うことであ測される医療やケアにつ ご本人や家族の意向等を 施設が生活状況、健康状普段から利用者・家族と そのためこれからは利用 合に備え、あらかじめ予 態や治療の方針だけでな 質の高い生活を継続でき 慮しつつも、できるだけ時々の利用者の状態を考 現在の病気(障害)の状医療スタッフと共同して、 おぞらでは、『利用者及び と共有することです。お 話し合う機会を設けてい あったときだけでなく、 るようにと考えています。 階まで) において、その なときから人生の最終段 のライフステージ(元気 や身体機能の低下する場 家族が、施設スタッフや 合い周囲の人や支援者 今後起こりうる医療、 将来的な病気の進行 康状態に変化の そうすることで 変化 の 状

ため今後は利用者の病状

変化があったときだけ

となるような

選択ができ

ことって

0

利益

ると考えてい

います。

その



活支援課 2 号館

はるかに

4月より保育士として生

属されました伊藤基博で

趣味は音楽・ファッショ

はるか

伊藤 基博

支援していきたいと思いま

よろしくお願いします。

良い生活が送れるように 利用者・家族にとってよ



動になった影山奈嘉子です。

あさひ

影山 奈嘉子

方向に 個々の を増やしています。 てチー 立場での ぞれの職 ファレンスでは、 力 シファレンスの機会 向 課題についてそれ 種がそれぞれの !かっていけるよ 者の支援につい 意見を言いつつ てひとつの 利用者 カン

> 2号館 大代 . 理恵

思っています。 るようにしていきたいと せたケアや看護を提供出来 せるように、個別性に合わ 利用者が日々安楽に過ご た大代理恵です。 4月より育休明 よろしくお Í で復帰

次お

声をかけていきます ただく予定です。順

ぐ

ご協力の程、

 $\subset$ 

い 年に なく、

も面談を実施させ

ぐ に

節目となるよう

くお願いします。

現在おおぞらでは多職

### 3 号館 鈴木 志保

めて知ることが多く、

やりがいと

願いします。

となりました。生活支援課の平野

4月より3号館、ほくとに配

属

達也です。趣味は映画鑑賞です。

社会人として、日々の業務は初

ほくと 平野達也

頑張ります。 の一員として動けるように も多いですが、早くチーム とが山ほどあり戸惑うこと いします。 人1人違うため、覚えるこ 方たちは個別性がとても高 なりました。おおぞらの 育休後から3号館に配 経管栄養や体位交換、 -ゼ交換の方法などが1 よろしくお願 属

# 4月より通所あさひに異

当施設では、利用者様の咀嚼や嚥下の機能に応じた食事形態 (普通食・キザミ食・ペースト食・胃瘻食) で提供しています。 また、月 1 回の食育メニューや行事食を実施し、毎日のお 食事を楽しく美味しく安全に召し上がって頂けるよう日々取り 組みを重ねています。



ミキサー食 副菜はペースト状の食



消化吸収が容易にでき る調理法を用い、容易 に咀嚼ができるレベル の食事

栄養課

普通食



加熱された軟菜の食事 キザミ食に比べると咀 嚼力が必要

管理栄養士:原・渡瀬

2月

を頼っていきたいです。 難があれば心優しい諸先輩の方々 ことが出来ています。これからも とても新鮮な気持ちで仕事に励む 大変な事はあると思いますが、 日一日新しい発見が出来、 働き始め、 映画鑑賞です。 利用者さんの笑顔 毎日

木

3月

身のスキルアップに繋げていける 方のお力添えをお借りしつつ、 よう尽力いたします。 个安を感じている毎日です。 自

4月

#### 苦情解決委員会

2024年1月~2024年3月 期間中公表を希望される苦情は ありませんでした。

(期間中受付した苦情0件でした)



ショートステイ 利用者数 (延べ利用日数)	47人(236日)	51人(275日)	52人(249日)
放課後デイ 利用者数 (延べ利用日数)	19人(77日)	21人(80日)	21人(89日)
実習者数 (グループ数)	0人(0グループ)	2人(1グループ)	0人(0グループ)